

佐賀県の地震活動概況 (2020年10月)

令和2年11月6日
佐賀地方気象台

【10月の地震活動概況】

10月に佐賀県内で震度1以上を観測した地震はありませんでした(9月は0回)。

※2020年4月18日から10月23日までの地震について、暫定的に震源精査の基準を変更していたため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化(増減)が見られることがあります。

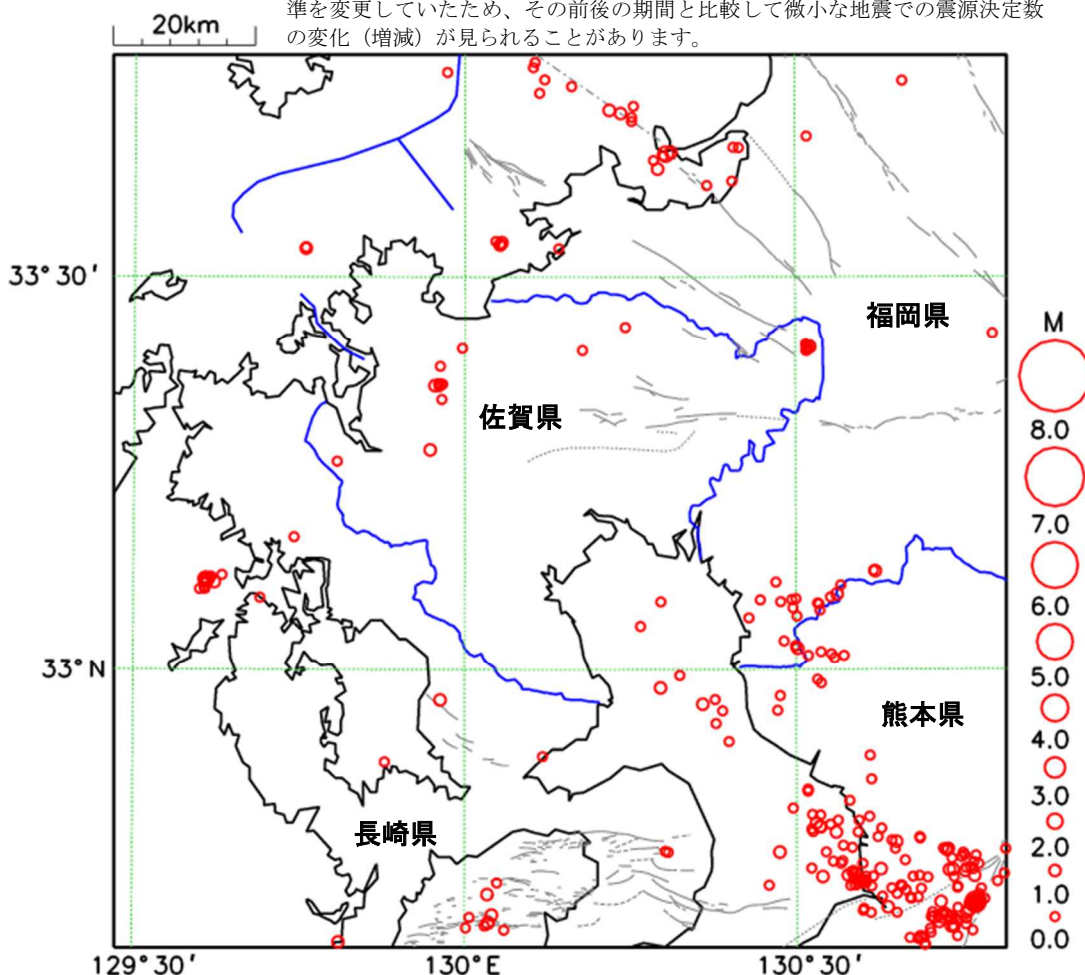


図1 震央分布図(2020年10月1日~31日、深さ30km以浅、 $M \geq 0.0$)
灰色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

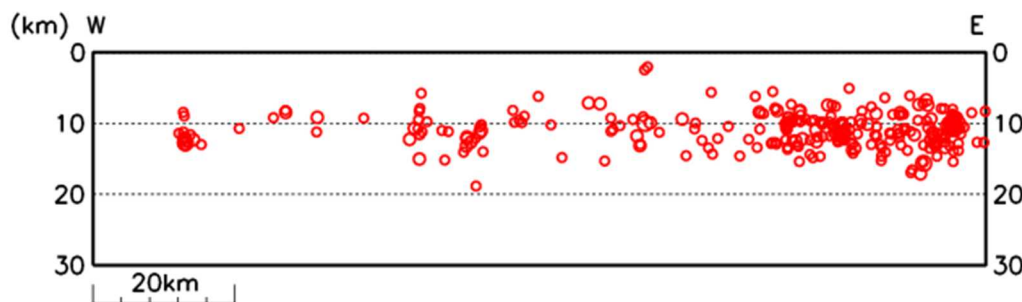


図2 断面図(2020年10月1日~31日、深さ30km以浅)
震央分布図を南の方から見た断面図です。

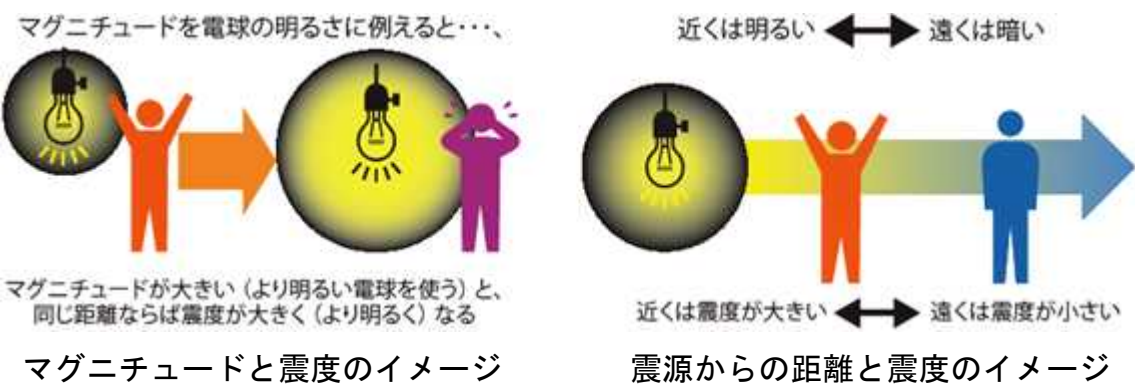
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

マグニチュードと震度

マグニチュードは、地震そのものの大きさ（規模）、つまり地震のエネルギーをあらわします。一方、震度はある場所での地震による揺れの強さをあらわします。

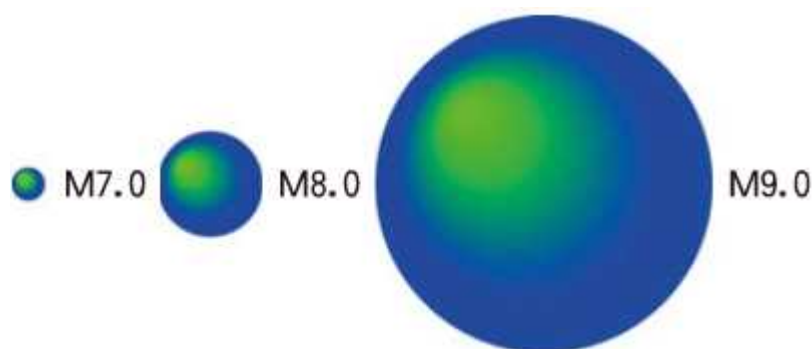
地震とは、地下の岩盤の破壊を伴う急激なずれです。この破壊の大きさを表す値がマグニチュード（地震の規模）で、これによって生じた地震波が地表に伝わって地面が揺れたとき、その場所の揺れの強さを表す値が震度です。したがって、マグニチュードは1つの地震について1つですが、震度は場所ごとに別々の値になります。

マグニチュードと震度の関係は、電球の明るさと周りの明るさとの関係によく似ています。電球の明るさをあらわす値がマグニチュード、電球から離れたある場所の明るさが震度に相当します。つまりマグニチュードが大きくても（電球が明るくても）震源から遠いところでは震度は小さく（暗く）なります。



マグニチュードが1大きい地震では地震の持つエネルギーが約32倍になり、マグニチュードが2大きい地震では地震の持つエネルギーは1000倍になります。

2005年3月20日に発生した福岡県西方沖の地震はマグニチュード7.0（最大震度6弱）、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震はマグニチュード9.0（最大震度7）でしたので、地震の持つエネルギーは1000倍違うということになります。



マグニチュードと地震のエネルギーの関係